

図書館ニュース

読書コーナー・
読書ノート リニューアル!

No.86

●平成26(2014)年5月15日 ●名古屋女子大学中学校高等学校図書館 ●

<http://lib.meiodai.ed.jp/>

「私」をつくる読書

野牧優里 先生 (国語科)

人間にとって、「本を読む」とはどういった意味を持つものなのだろうか。私は「本を読む」とは、自分を作ることに通じているのだと考える。

高校時代、授業後、図書館へ出かけていくのが日課だった。本を読むこと＝勉強からの回避手段だったわけだが……。やらなければならないことを前にすると、人間はたちまち逃避したくなる。

高校2年生には「山月記」という小説を学習する。当時、私は「山月記」に大変、感銘を受けていた。ある日、テレビで、「山月記」は「人虎伝」という中国の話が元になっているという情報を手に入れた。早速、図書館に行き、「人虎伝」を読み、中島敦がどんな風に、話を作り変えたのかを比較し、「中島敦深いわー」と感動したわけだ。

本を読むとは単に実学的な知識を吸収するだけではない。私にとって重要なのは、「イメージ」するということだ。本の中では、実にさまざまな事件が勃発する。ある日突然、人間は虎になったり、巨大な虫になったりする。そして、彼らは失望する。「自分」というものは、常に不安定なのだ。私たちが本を読み、そのような不安定な事態に身をおくこと＝想像することは、これまで築いてきた自分自身の基礎を揺るがし、新しい自分を構築するきっかけになるだろう。

本を読む際には、「自分」というフィルターを介して、本に書かれた異常事態を吸収し、「自分」を再認識する面白さがある。こんな楽しみを覚えて、大学生になった。

大学生になると「レポート」「論文」というものを書くことになる。文学部の学生なら、図書館の「書庫」という暗くて、かびくさい地下室にこもって、古くて、触ったら崩れそうな雑誌を見つめる毎日がやってくるだろう。

「レポート」「論文」を書くというのは、「自分の考えを述べる」ということだ。そのとき、自分の考えを述べるためには、「根拠」がなければならない。根拠とは何か。それは先人の意見であったり、図書館にある資料なのかもしれない。大学生たちは、「根拠」を求めて図書館にやってくるのだ。大学生たちは、本を読み、「書くこと」によって、自己を表現する。

このように、私たちは本を読むことを通じて、成長する。「本を読むこと」は、新しい自分を作り出し、表現する機会なのである。

みなさんも新しい自分を発見してみませんか？

朝読コーナーが

リニューアルしました!



4月、朝読コーナーと読書ノートが2年ぶりのリニューアルをしました!

いままでは、図書館からのおすすめ100冊と先生たちからの教科のおすすめがたくさん載っていましたが、今回はちょっと違います。今回は、全ての本を先生方がみなさんのために選んでくれました。しかも、中学生、高校生の読書としてのおすすめの本と、教科としてのおすすめの本があります。先生方のおすすめコメントもついています。読めば人生のヒントや勉強の新しい発見があるかも?!

じっくり読んで今後の読書の参考にしてみてくださいね。

今後、教科ごとに何人かの先生方からのおすすめを朝読コーナーの展示で紹介していく予定です。1年で8教科を紹介します。楽しみにしてくださいね。



校長先生・教頭先生から

読書のメッセージ



鈴木 栄 校長先生から「読書の薦め」

SAKAE SUZUKI

『橋をかける——子供時代の読書の思い出』

美智子 著 文藝春秋

914
M



平成26年度も無事に学校も動き始めました。生徒の皆さんは元気に勉強に部活動に頑張っていますか。

さて、読書の大切さは、皆さんの誰もが知っていることだと思いますが、苦手な人もいることでしょう。そんな人達も含めて若い人に、読書の素晴らしさを示すエピソードを紹介するときは、皇后美智子様のお話をすることにしています。

皇后様の著書「橋をかける」の一節に「子供時代の読書は、私に根っ子を与え、翼をくれました。この根っ子と翼は、私が外に内に橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました」という記述があります。これは、1989年(平成元年)9月、インドのニューデリーで開かれた国際児童国際評議会の世界大会での講演「子供時代の読書の思い出」を活字にしたものです。そして、根っ子とは「安定の根」であり、翼は、どこへでも羽ばたける「想像力」のことであるという紹介が、ある新聞に出ていました。皇后様のお話は、若いときの読書の大切さ、自分の根幹を作り、自分の世界を少しずつ広げていくことができる読書の素晴らしさを示していると思います。

私は日本史の教員でしたので、大人になってからは、生徒に教えるときに、教科書に書いてあることだけでなく、登場する人物やその時代背景をもう少し深く知りたいと思い、歴史小説をよく読みました。吉川英治、司馬遼太郎、吉村昭、北方謙三、津本陽などの作者の歴史小説が好きでした。今も読み返すことがあります。いずれの小説も丹念な取材を通して書き上げられた小説が多く、本当のことなのではないかと思ってしまう臨場感があり、わくわく感がありました。

人によって、本に対するわくわく感は違うと思います。若いころの読書は、まずは自分の好きなジャンルの本から始めて、名著と呼ばれる本を読むことをお勧めします。「名女の素100のレシピ」が、今年リニューアルされました。その中から選んだ本を読むことから始めてもいいでしょう。そして、皆さんが、「名女の素100のレシピ」に付いている読書の記録を活用することを願っています。

知らないこと新しいことを知りたいと思う気持ち知的好奇心は、人間の本能だと思います。季節のよい初夏の日図書館を訪れて本能を満喫させてください。

松岡正樹 高校教頭先生

MASAKI MATSUOKA

『人口減少下のインフラ整備』

宇都正哲ほか 編
東京大学出版会



519
U

日本は人口減少社会に入っている。人口減少が社会に影響を与えるのだろうか。人口の減少と、私たちの生活とはあまり関係がないような気がするが、はたしてそうなのだろうか。高速道路でトンネルの天井が落下したり、鉄橋が崩落したのは人口減少とは直接の関係がないようにみえるが、全くないのだろうか。

本書では、人口減少とインフラに関する問題を議論している。人口が減少すればインフラの更新・建設は必要なのか、財政が悪化すれば維持管理は必要なのか。人口の少ない地域から多い地域に移住させることによって、インフラの効率的整備を図るという考え方もないわけではないが、日常生活を支えるというインフラ整備の目的からするといかがなものか。

インフラ整備のサービス水準については地域による格差がある。国内における自治体の格差、自治体内の地域による格差である。効率性の観点から特定地域への集中投資が

おこなわれ、そしてこの格差を縮めるための政策もとられていたが、限られた財政の中では公平なサービスを提供することは困難である。このような同世代内の格差とともに、負担を次世代に負わせるというような、世代間の格差も発生してくる。地域間の公平性や世代間の公平性を維持していくのは、経済成長が緩やかになっている現状ではこれもなかなか難しいことである。

赤字バス路線や空港の廃止、学校や公共施設の統廃合など、今後私たちの身の回りにも人口減少の影響が出てくるかもしれない。この本は一冊読みとおすのはなかなか難しいかもしれないが、各章が独立しているので興味関心のある章を拾い読みしてもよい。推薦入試で大学進学を考えている人や、公務員を目指している人に知的バックグラウンドを広げる書のひとつとして読んでもらいたい。

次良丸 勝 一貫教頭先生

MASARU JIROMARU

『三国志』 羅貫中 著 渡辺仙州 編訳 佐竹美保 絵 偕成社



923
R
1~5

「三国志」は多くの作家が著書を持ち、10巻を超える長編が多い。また登場人物も個性豊かな人物が多いことから、一人の人物像を描いている作家もあり、読みたい本がたくさんあるのはうれしいが、何から読み始めて良いのか正直なところ迷ってしまう。なかなか読み切るには骨の折れる本である。しかし「偕成社」出版の「三国志」は全四巻であり、挿絵も多く読みやすい本であった。

そもそも、私が久しぶりに「三国志」に手を伸ばした理由は、娘が学校の図書館から借りてきた「三国志」を熱心に読んでいた姿に感心したからだ。

「三国志」の魅力は、広大な中国の大地に展開するワールドでダイナミックなストーリーと、時を経てもなお、人々を魅了してやまない名だたる登場人物にあるのだろう。誰をヒーローに持ってきても、うなづける気さえしてしまう。好感度の高い劉備と、その対極に描かれている曹操らが軸となって展開していく様は、史実以上の娯楽的な芝居でもみている感がある。それもそのはず、史書としての「三国

志」の編集以後、民間では講談や芝居が数多く作られた。そしてそれが明代に「三国演義（三国志演義）」というひとつの物語にまとめられる。一般に知られる「三国志」とは、この「三国演義」のことである。

久しぶりに読んで、若い時に惹かれた登場人物と今惹かれる人物と大きく異なる点に驚かされた。若い頃は、戦国時代を勝ち抜くためには必要と感じていた曹操の横暴さや強引で冷酷な面（織田信長にも通じるが）も気にならなかったが、年齢や仕事の変化、あるいは家庭や子どもの成長など、自分自身の背景の変化からか、今では全く共感できなくなっていた。一方、礼儀や秩序、義理や恩などを重んじるため、一歩先へなかなか進む事ができないが、君主でありながらそういう人間らしさのあふれる劉備に強く惹かれるようになってきた。もちろん、過去より数多くの読者から慕われているが。

さてみなさんは、個性あふれる登場人物の中で、特に惹かれる人物は誰でしょうか。

新しくこられた校長先生と両教頭先生から読書の薦め、おすすめの本の紹介をしていただきました。

校長先生、教頭先生が少し身近に感じられるかも？！

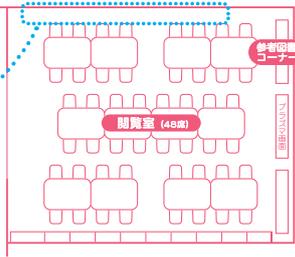
ここで紹介していただいた本は図書館に揃えてありますので、興味をもったら読みに来てくださいね。

平成25年度卒業記念寄贈品紹介

昨年度、高校を卒業した先輩より卒業記念にたくさんの贈り物をいただきましたので、紹介します。

閲覧室の書架

閲覧室の壁際に新たな書架を寄贈していただきました。これにより図書配架スペースが増えるため、今まで以上に資料を充実させることができるようになりました。



学習用テーブル

ブラウジングコーナーに、三角テーブルをあらたに3つ寄贈していただきました。以前からある三角テーブルと同じものをいただきましたので、連結して大きな六角形のテーブルにもでき、本やノートなどを広げやすくなりました。



伊能図大全

国内に現存する最も上質で完成度の高い図幅を厳選した伊能図の集大成、河出書房新社刊の「伊能図大全」を寄贈していただきました。



岩波 世界人名大辞典

全世界の国・地域について、神話・伝説上の人物から現存者までを網羅した総合的な人名辞典、「岩波 世界人名大辞典」を寄贈していただきました。インターネットでは、得られない貴重な情報満載です。〈ヒト〉について調べたいときに、ぜひ活用してください。



西村書店 アートライブラリー

名立たるアーティストたちの作品を美しい図版で見ることができるアートライブラリーシリーズを42冊寄贈していただきました。



授業の成果発表

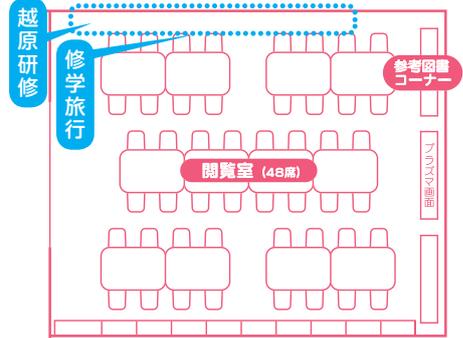
平成25年度も高校3年生が「国語表現」の授業で、古典文学を週刊誌の記事風に紹介するというレポートを作成しました。記事を作るために図書館に何度も通って資料集めをし、イラストを入れ、レイアウトも工夫したレポートは、大変面白いものに仕上がりました。出来上がったレポートは、記事の基となった古典作品の図書と一緒に図書館入口横のスペースで展示発表をしました。



図書館よりお知らせ

★ 校外学習コーナーを新しい書架へ移動しました。★

25年度卒業記念寄附でいただいた新しい書架へ「校外学習コーナー」を移設しました。越原研修、一貫の東京学習合宿、修学旅行などすべての校外学習の資料をここに集約しました。校外学習の際の事前、事後学習に活用してください。



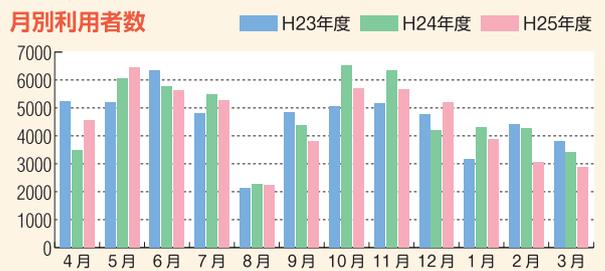
平成25年度利用状況

利用者は前年度と比べてほぼ横ばいでしたが、貸出冊数が前年度比120%増となりました。ただ、学年の差がおおきく、一貫中上部1・2年生だけで全体の貸し出し冊数の半数以上を占めています。高校生になると忙しいかもしれませんが、通学途中や朝のST前、就寝前などスキマ時間をうまく利用して読書してみよう。

年度別貸出冊数の推移



月別利用者数



学年別貸出冊数 (過去3年比較)



編集後記

4月から朝読コーナーがリニューアルされました。同時に読書ノート『名女の素100のレシピ』も改訂されました。読書ノートは、先生方からの読書のおすすめ本と教科ごとの推薦図書で構成されていて、館内の朝読コーナーにも同じ本が並んでいます。朝読コーナーでは先生のおすすめ図書をオススメコメントとともに順次紹介しています。今回の図書館ニュースでは記事の中に校長先生、教頭先生からも図書の紹介をいただきました。先生のおすすめ本、あなたも読んで感動を共有してみませんか。

貸出冊数上位ランキング

